

# ひな祭り



お内裏様とお雛様 !(^^)!



お内裏様とお雛様の間違い探しゲームや子どもたちの手作りひな人形でひな祭り (^\_^)



## あっという間の1年

子どもたちと過ごした楽しい毎日(^^)ハプニングとの戦い!?

たくさんのことを子どもたちから学びました。ありがとう!

かぜ組さん、そら組さん!

”卒園おめでとう”

やっぱりかっこよかったね!

卒園式でもカッコイイ凛とした姿を見せてくださいね(^\_^)v

タンポポのように強く・明るく!笑顔をまきちらせ!

つき組・ほし組さんもはな組・ゆき組さんも、にじ組・ゆめ組さんもお兄さんお姉さんになりますね!

保護者の皆様、ご支援・ご協力を賜り、本当にありがとうございました。m(\_ \_)m

来年度もよろしくお願いいたします。

## 春よ来い!

草木が一斉に芽吹き、ほころび始めるこの季節は、これまで慣れ親しんできた生活や環境から離れて、未知の生活に飛び込む季節でもあります。

すぐに慣れる人がいる一方で、新しい生活になかなか馴染めない人もいるでしょう。周囲の人が難なくこなしているのに、自分一人だけうまくいかず、いつの間にか最初の意気込みを失っていく人も少なくないのではないのでしょうか。

でも、焦ることはないのです。他の人を羨むこともないのです。

大事なのは、地道に、こつこつと、誠実に目の前の仕事や勉強(課題)に取り組むこと。

そうすれば、時間と労力をかけて蓄積された“経験知”は自分の本当の力として身につき、必ずあとで生きてくるのです。

そして、今はとても敵わないと思っている人を、知らないうちに追い越しているということもよくあります。(これもよく目にする事です)

自ら為すべきことを為す中で得られる新たな発見や気づき、それらをひとつひとつ確実に血肉にして、自分だけの経験知を貪欲に高めていくことが重要だと思います。

## 4月の行事予定

- 1日(土) 入園式  
10:00~
- 6日(木) 始業式  
1号児11時降園
- 13日(木) 英語で遊ぼう  
9:30~
- 14日(金) 保育参観  
9:00~
- 17日(月) 体育遊び  
9:30
- 19日(水) 誕生日会  
10:30~
- 20日(木) 避難訓練
- 24日(月) 体育遊び  
9:30~
- 26日(水) 春の親子遠足  
(陶夢ランド)  
10:00~13:00
- 27日(木) 英語で遊ぼう  
9:30~

# 子ども理解って つもり じゃ困る



お店屋さんごっこ (^\_-)



「親だから子どもの事は何でも分かってる」と思っている方がいらっしやいませんか！？

本当にそうでしょうか？

実は、「分かっているつもり」の部分でないですか？

「親の欲目」とでも言うんでしょうか。うちの子がそんなことを・・・するはずもない・・・。

だってそうでしょ！活動的な子どもの時間は、こども園で過ごしているんです。子どもが家に帰ってきてからずっと一緒に活動してますか？買い物や夕食準備等忙しい事だと思います。食事の時に話をしているから大丈夫ですか？中にはお仕事されているお母さん方は、おじいちゃん・おばあちゃん方の助けをもらいながらの毎日だと思います。

親の見えない部分はどうしてますか？子どもと話をしている。コドモンを読んでいる、クラスだよりを読んでいる。コドモン（連絡帳）に書いている。そんな中で疑問に感じたりすることってないですか？

自分の子育てに自信を持つことは大切なことですが、100%ではないと思います。それは分かっていると思うんですが、とかく我が子のこととやかく言われると、「分かってもいないくせに」と腹立たしく感じたりすることってないですか？

でも、全部が外れているというより、あたっている部分もある。でもそれはほんのチョット。耳の痛い話には耳をかさないという方です。

昔から「耳の痛い話ほど傾聴しなさい」と言われていますが、・・・どうでしょう。

親の姿勢が、子どもの大事な面を見逃しているということはないでしょうか？それがいちばん怖いんですよね。「分かっているつもり」を生んでいるんだと思います。

”つもり”じゃ子どもが可哀想ですよ。しっかりと向き合うことは当然ですが、子どもの思いに寄り添うこと（甘やかすこととは別物）（相手の世界を大事にしてやる）や”お母さんは●●だ”というような声かけの工夫や自分の安心のための子どものコントロール（抑圧も含め）は子どもにとって好ましいものではないと考えます。それは、子どもの行動に現れるようになるし、親の目を気にして行動するようになり、親の前では「良い子」をえんじるようになるのです。その方が子どもにとって楽だからです。最悪は、そのことに親自身が気づかない事です。

「うちの子がそんなこと・・・はずがない」という言葉につながっていくのです。

親として、子どもの情報を広く集めることも、子育てを充実させていく方法のひとつではないでしょうか。親のコミュニケーション力が発揮されることにもなります。

子どもの成長を確認しながら、今後の成長に対する取り組みを共有し語る。色々とお忙しいお母さん方ですが、可愛い子どものために時間を確保してほしいと思います。

問題のあるなしにかかわらず教育相談の必要性というのはそこにあるのです。子どもの相談にあらず、親の相談でもあるのです！ (^\_-)

## 「あったあ！」

「ほらあ！こんなに大きい！」

「どれどれ、わあ ほんとだ！大きい！！」

弾けんばかりの笑顔！ 10月下旬のいもほりのことです。まだ記憶にあるかなあ？！

子どもたちは目を輝かせ、小さなモミジのような手で芋を探す。うまく見つけれられる子どももいれば、なかなか芋にたどり着かない子どもも。なかなか声が出ない。そうした時、担任は目ざとく声をかけ芋の方へ手を・・・。

指先に芋の感触！「お芋だあ！」「やったあ！」ニコニコ笑顔！

これは、土にふれ土の中から芋を掘り出した子どもでなければ分からない感触なのです。

時代は大きく変わりました。しかし、幼い子どもたちを見ていると、無条件にかわいい。子どもたちの明るく、生き生きとした表情を見ていると、基本的には何も変わっていないのではと思えてくる。変わってしまったのは、実は我々大人の側であり、社会の方ではないかと思える。自分たちの少年時代は、貧しかったけれども、友人たちと群れ遊び、子ども時代を謳歌していたような気がする。だから、子どもの頃を思い出すと、なぜか元気になる。現在のように携帯やパソコン、ゲーム機どころか、遊び道具は小刀を使い自分で作ったり、近くの野山を走り回ったり、川で魚釣りをしたり、泳いだりという単純な遊びではあったが、なぜか充実感、満足感があつた。いつも集まる多くの仲間がいたからかもしれない。ロバートフルガム（作家）（米国・哲学者）が「人生に必要な知恵は、すべて幼稚園の砂場で学んだ」というタイトルの本を出し、大きな反響を呼んだ。その内容は、大勢で群れ遊んで過ごすことの多かった自分の幼い頃の体験と重なる。「人生を生き抜いていくための大切な教えは、大学院という山のとっぺんにあるのではなく、まさしく集団生活の原点であるこども園や幼稚園など、幼い頃の体験の中にこそある」のです。蒲生てんてんこども園の子どもたちには遊び（体験）を通して多くのことを学んでほしい。

